チャイコフスキー作曲　歌劇「エフゲニー・オネーギン」

190923

幕	場	場面	内容	分		主な歌う登場人物							見どころ
第一幕 80分	1	タチアーナは オネーギンに 一目惚れ	ラリーナ家の屋敷。性格の異なるタチアーナとオリガ姉妹のおしゃべりが聞こえ、未亡人ラリーナと乳母はジャムを作っている。そこに農民達も集まってくる。 ラリーナは、小節好きなタチアーナに小説なんて総て作り事と言っているところに、乳母がオルガの婚約者で詩人レンスキーと友人オネーギンを連れて来る。 タチアーナは、オネーギンこそ自分の夢の現れであり、待っていた男性だと感激する。 レンスキーは、オリガに対して純粋な愛を情熱的に歌う。 夕暮れが近づき、ラーリナは友人たちを夕食に招き、皆は家の中に入る。	80	35	タチアーナ	オネーギン	レンスキー	オリガ	母ラリーナ	乳母		レンスキーの歌
	2	タチアーナは ラブレターを 書く	真夜中。興奮して眠れないタチアーナは乳母に昔のことを話してくれるよう頼む。 タチアーナは一人になると、オネーギンへの愛が高まり彼に手紙を書き始める。 夢中になって手紙を書き上げた頃には夜は白み、朝日が上り、遠くに牧童の笛の音が聞こえる。 タチアーナは入ってきた乳母にオネーギンへのラブレターを託す。		30	タチアーナ					乳母		タチアーナの歌
	3	オネーギンは タチアーナを 諭す	庭園で娘たちが苺を摘んでいる。タチアーナは、オネーギンが来るので興奮している。 オネーギンは、ラブレターを返しながら、自分は結婚生活に向かない人間であり、タチヤーナにも自制することを学ぶよう諭す。		15	タチアーナ	オネーギン						
第二幕 45分	1	軽率なオリガと 身勝手な オネーギンの 犠牲になる レンスキー	約六ヶ月経過したタチアーナの命名を祝う宴で、オネーギンはタチアーナと踊っている。 オネーギンは、自分に向けられた陰口を耳にして、自分をこの舞踏会に無理やり誘ったレンスキーに腹を立て、悪戯心からオルガと踊り、彼女をちやほやさせる。 嫉妬するレンスキーに自制することを知らない軽率なオルガは取り合わない。 フランス人家庭教師トリケがクープレでタチアーナの美しさをフランス語で褒める。 次のマズルカでもオネーギンはオルガと踊るので、レンスキーは遂に激怒し、 オネーギンと口論となりラリーナの静止も聞かずに彼に決闘を挑む。	45	25	タチアーナ	オネーギン	レンスキー	オリガ	母ラリーナ			ワルツ マズルカ
	2	レンスキーは オネーギンに 殺される	早朝。レンスキーと決闘介添人がオネーギンを待っている。レンスキーは失った青春の日々を想い歌う。考えるはただオルガのことばかり。オネーギンが彼の介添人と登場し、束の間のためらいがよぎり、内省と回顧の同じ言葉をつぶやくが、ピストルが渡され、レンスキーは死ぬ。		20		オネーギン	レンスキー					レンスキーの歌
第三幕 35分	1	オネーギンと タチアーナが 再会する	オネーギンはレンスキーを殺した後、放浪の旅に出たが飽きて戻ってきた。久し振りにサンクトペテルブルクの社交界に招待された。そこに美しい女性が会場に入って来て、それがかつて自分が田舎で冷たくあしらったタチアーナであり美貌を兼ね備えたのを見てびっくりする。 オネーギンはグレーミン公爵に彼女のことを問い、公爵の妻であることを聞かされる。 公爵はオネーギンをタチアーナに紹介する。 タチアーナは、久し振りのオネーギンとの出会いに落ち着かず、公爵と共に部屋を出ていく。	35	20	タチアーナ	オネーギン					グレーミン公爵	ポロネーズ エコセーズ
	2	横恋慕の失敗	グレーミン公爵邸の部屋でタチアーナは、再会後にオネーギンからしつこく送られてくるラブレターを読んでいる。タチアーナは、現れたオネーギンに「覚えていますか。田舎娘の私に冷酷な説教をした。それが今執着しているのは、私が宮廷の覚えがめでたい身分の高い将軍の妻だからでしょう。そして、私が不貞を犯せば誘惑者として名をあげる事ができるからでしょう。どうぞこのような事はやめて、名誉と知性を大事にしてください。」 オネーギンはしつこく迫るが、タチアーナは、冷酷に対処し部屋を出て行く。 オネーギンは、横恋慕の失敗を、自分の運命の惨めさとして嘆く。		15	タチアーナ	オネーギン						

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。